

良き仲間と出会って

大川校区東老会会長
山浦 春美

私の町内には、大川市を代表する高木病院をはじめとして病院が7つ、銀行が2つあったり大学があったりと大川市の中心に位置する場所にあります。もともとは商店街がにぎわっていたということもあり、さみしい街となりました。

東老会は会員数86名、第一会長、第二会長と二人の会長で運営しております。私がまだ会長を務める前、会長のなり手がおらず解散しようかという声が会員の中から出ておりました。しかし、今まで頑張ってやってこられた先輩方に申し訳ないと思い、また役員一同から協力して一緒にやろうと強く推していただき東老会の会長を引き受けました。なくてははいけないという一念で引き受けましたが、女性の会長でやっていけるだろうかと不安がいっぱいでした。しかし、私の町の区長さんも女性でしたので、一寸心強いところもありました。

私の若い頃、義父が老人会の会計を担当していたこともあり、仲間と私の家で楽しく会合していたのを思い出しました。その中で義父が女性の役員はよく気がつき、協力してくれるから助かると言っていました。会の仲間と楽しくやればきっとやっていけると少し自信が出てきました。

以前夫が区長を行っていた関係で地域のことは少しは知っておりましたので、頑張ろうと決心しました。

会長を引き受けて5年間。最初は初めての総会での質問に対応やグラウンドゴルフ、ペタンク、旅行等これまで行ってきた行事をこなすのが精一杯でした。

それから少し余裕ができてから、私の町は神社がないのですが地藏尊の行事の参加や、地域の子たちと交流するために保育園訪問、介護予防の一環として月に2回公民館でゆうゆう会の開催等々を始めました。会費は一人年間1,500円納入いただいております。

しかし、コロナとなり、思うように活動ができなくなりました。コロナ中で総会も全員を集めては行うことができなくなりましたが、やはりこのままではいけないと思い、配布資料と記念品を全員に配って回りました。コロナ禍のため限られた交流ではありますが、外に出る機会が減り、前のように会員同士で話す機会がなくなってしまった皆さんに大変喜ばれました。

残念なのは、入会者の減少です。死亡者が出てしまうことは仕方ありません。どうしても高齢化する私たちです。どのようにして会員数を増やしていくかが課題となります。

大切なことは健康年齢を伸ばすことです。そのためには市が行っている事業を積極的に利用していくことも一つの方法だと思います。具体的には、ゆうゆう会、元気カフェ、あたまとからだの健康教室などたくさんの事業が市で企画されています。会長としての私の役割はどん

な施策があるのかをチェックして、会員の皆さんに周知することだと思っております。また、東老会独自でも引きこもりを防ぐために輪投げ大会やビンゴ大会などの活動を楽しくやっています。最後に皆さんと家族の協力に感謝し、東老会の発展に貢献できるよう引き続き頑張ります。



保育園訪問



ゆうゆう会



花
植
え



旅
行